

モバイル接続料の検証に関する追加質問に対する回答（オプテージ）

【佐藤構成員】

1. 需要について

- (1) 貴社は、モバイルビジネスにおいて、どのように冗長性を確保しているか、その考え方と運用について説明頂きたい。併せて、研究会（第 58 回）で示された MNO の冗長性に関する考え方について、貴社の意見をお示しください。

（オプテージ回答）

始めに、ネットワークの冗長性の考え方については大きく二つの見方があるかと考えます。1 点目は回線や機器障害時等のサービス継続性に係る冗長性、2 点目は急激なトラフィック増等に対応するための品質確保に係る冗長性となります。ご質問につきましては、上記 2 点に分けてご回答させていただきます。

【モバイルビジネスにおける冗長性の確保について】

● サービス継続性に係る冗長性

①弊社側設備について

- ・ バックボーン設備や ISP との接続に係る設備等において、十分な冗長構成を取り、高信頼度な設備設計を行っております。
- ・ 具体的な運用としては、サービスの正常性確認のため、各機器の稼働監視や障害検知を行い、稼働率等の自社品質基準を満足しているか確認し、リスクに応じて対策を図っております。

②MNO 側設備について

- ・ 先日の MNO 各社様のご説明の通り、各社品質基準を満たすよう、一定の冗長化がなされているものと認識しております。
- ・ 設備故障等によりサービス障害が生じた場合はご連絡をいただいております、後日原因や対策等についてもご説明いただいております。

● 品質確保に係る冗長性

①弊社側設備について

- ・ 自社のリソース管理基準に基づき、トラフィックに応じて余裕を持った設備増強を図っております。
- ・ 具体的な運用としてはネットワークのトラフィックや設備のリソース状況を監視し、監視結果に応じて対策を図ることで品質維持に努めております。

②MNO 側設備について

- ・ トラフィックの状況により、POI 接続帯域を増強するため、適宜 MNO 各社様と契約帯

域を増加しております。

- ・ ただし、帯域増強コストの観点から収支上限界が存在するため、一部のピーク時間帯のトラフィックについては、POI 接続帯域が十分に確保できているとは言い難い状況となっております。

【MNO の冗長性に関する考え方への意見】

- サービス継続性に係る冗長性

サービス継続性に係る冗長性につきましては特に異論はございません。引き続き適切に増強いただきたいと存じます。

- 品質確保に係る冗長性

トラフィックは常に変動するため、品質確保に係る冗長性につきましては、MNO 各社様のご説明の通り、トラフィック実績等を踏まえて安定稼働に必要な帯域を一定程度確保いただくことが必要かと思えます。この点、冗長分の設備費用は接続料原価に加えられ、需要の算定においては除かれるということですので、冗長設備が過剰とならないよう、トラフィック実績に対して適切に考慮されていることが重要であると考えます。

また、MNO と MVNO の間には、急激なトラフィック変動等におけるネットワークの可用性について差が生じているのではないかと考えるところでございます。

前回の研究会にて、ソフトバンク様より「MVNO の契約帯域もトラフィックを流すことができる上限値であることから、直面する需要について MVNO と MNO 間でイコールフットィングは確保されていると考えます。」(ソフトバンク様資料 P17) とご説明のあったところ、冗長設備を自由に使える MNO 各社様と異なり、MVNO は契約した帯域によって制限され、その上限帯域は現在の接続料では収支上の限界が存在するため、実際に MVNO は昼間等の混雑時は頭打ちとなって速度が遅くなる等、MNO 各社様のサービスと品質に大きな違いが生じている状況です。

仮に MNO 各社様が、自社のサービスのみ平時のトラフィックに対して非常に大きな値であるピークトラフィックについて、恒常的に冗長設備を用いているということであれば、MVNO は追加帯域を契約しないと冗長設備を使えないことに対し、MNO 各社様は余裕を持って使えることになり、これではイコールフットィングが確保できているとは言い難いのではないかと考えます。

特にサブブランドやオンライン専用プラン等の小容量・低価格サービスにおいては、MVNO と価格帯が近いにも関わらず、常に高速な高品質サービスを提供されているところ、MNO と MVNO 間において冗長設備の使い方に差異が生じているのではないかと懸念されるところでございます。

以上